

# 時を表す表現

## —— 「トキニ」をめぐって——

澁谷きみ子

### Abstract

Subordinate clause “*toki*” is a grammatical item treated at the beginning of Japanese study, but the differences among “*toki ni*”, “*toki wa*” and “*toki ni wa*” including “*toki*” are hard to explain sufficiently. Therefore, even advanced Japanese learners may not be able to use them appropriately.

This paper offers the characteristics of the subordinate clause “*toki ni*”, having state predicate in the main clause. The results show that frequent use of “*toki ni*” as a state predicate depends on factors such as mental attitude and the subjects in the main clause are different from the subjects in subordinate clause in case that the state predicates don't include mental attitude.

**Keywords :** Subordinate Clauses, *Toki ni*, State Predicate, Mental Attitude, Different Subject

### 1. はじめに

日本語学習者にとって従属節「トキ」は、初級段階において英語母語話者などには“when”に置き換えられて学習される傾向にあり、その後、従属節「トキニ」が出現してもその違いについてはほとんど説明がなされていない。また、上級になって改めて学習する機会を得て、従属節「トキニ」が「1回の事態の発生」について表現する際に最も適当であることは理解できても、特に「時を限定する」という意味を「トキ」や「トキ（ニ）ハ」との違いを踏まえて正確に捉えることは難しい。

筆者が上級日本語文法のクラスにおいて「従属節『トキニ』の主節には状態性述語はあまり現れず、例外的である」と説明した際、学習者の一人が「どのようなときに、その例外的な状態性述語が現れるのか」との質問を受けた。いくつかの例文を提示し、「時を限定する」表現であることを強調して説明したが、学習者は十分な理解を得られなかったようだ。類似表現の微妙な差異を直感で捉えることができる日本語母語話者と異なり、日本語を外国語として学ぶ学習者は様々な表現を適切に産出するために、なんらかの意味的な、あるいは形式的な違いを知る必要がある。

本稿は、従属節「トキニ」の少数表現である主節が状態性述語に限定して考察し、日本語学習者がより適切な表現を身につけるための知見を得ることを目的とする。用例収集には『中日新聞』（2006年CD-ROM版 以下『中日新聞』（2006）とする）を使用し、分析を行った。

## 2. 先行研究

### 2.1 時を表す名詞+「二」

時間名詞を時間状況語として使う場合、中村（2001）は、基本的に語彙の副詞性と名詞性の違いが関与しており、「きょう」「あさって」等の直示は副詞であるため格助詞と共起せず（例（1）a）、「3時」「3日」等の名詞は格助詞と共起できる（例（1）b）と説明している。（例文は澁谷）

- (1) a. きょう, 友達と会いました。  
b. 3時に, 友達と会いました。

また、鈴木（1985）は、副詞と名詞の両方の用法を持つ語彙について、主節が動作性述語の場合は「二」と共起できる（例（2）a）が、主節が状態性述語の場合は無助詞になる（例（2）b）と指摘している。（例文は澁谷）

- (2) a. 水曜日図書館へ行きます。  
水曜日に図書館へ行きます。  
b. ここは夜たくさんの星が見えます。  
\*ここは夜にたくさんの星が見えます。

さらに、岡田（1991）は、従属節の出来事を限定するときには「3日に」のように「二」のつきたちで示され、主節の出来事を限定するときには「2月10日」のように「二」のつかない無助詞で示される（例（3））傾向にあると述べている。（例文は澁谷）

- (3) 2月10日, ○○大学は3日に実施した入試で出題ミスがあったと発表した。

### 2.2 時を表す従属節「トキ・トキニ・トキ（二）ハ」

トキ・トキニ・トキ（二）ハの3つの形式における使い分けについて、寺村（1983）は次のようにまとめている。（例文は『中日新聞』（2006））

#### ・PトキハQ

この形が最も適当なのは次の場合である。

(イ) PトキQが一般的なきまりを表しているとき。

(例文) 違反のある疑いの食品を見つけた（\*とき／\*ときに／ときは）速やかに県に報告する。

(ロ) 一回きりの事象でも、Qがある状態を表しているとき。

(例文) 「お母さんようこそ」と書かれた横断幕で迎えられた（?とき／\*ときに／ときは）うれしくてね。

#### ・PトキニQ

時を表す表現（澁谷）

この形が最も適当なのは、一回きりの事態の発生を報告する文の場合である。

（例文）その設立準備を進めている（時／時に／\*時は）、ニュースが飛び込んできた。

・PトキQ

この形は、上のどの場合にもほとんど使用可能だが、特に、話し手がまずPという事態を述べ、次にそれに続いて起こったことを、いわば発見として述べる場合にはこの形が最も適当である。

（例文）初詣に行った（とき／ときに／\*ときは）、面白いお社を見つけた。

塩入（1994）は、寺村（1983）の分析をもとに、トキ・トキニ・トキハ・トキニハの4つの形式について、主節のタイプ・独立度の高さ<sup>1)</sup>・動作主の異なり・仮定条件の視点を加えて分析した結果、「トキニ」は節の独立度が低く、主節には動作性述語<sup>2)</sup>が多いと説明している（表1参照）。

表1 塩入すみ（1994）

	トキ	トキニ	トキハ	トキニハ
節の独立度	高	低	高	高
主節の述語				
動作性述語	多	多	少	少
	変化動詞／多 異なる主語／多			
状態性述語	少	少	多	多
仮定条件	少	少	多	多

さらに、塩入（2004）は、寺村（1983）と同様、トキ・トキニ・トキ（ニ）ハの3つの形式について節の独立度・使い分けの決め手となる表現・主節の述語の傾向の3点に焦点を当て、次のようにまとめている（表2参照）。

表2 塩入すみ（2004）

トキ	いわば無標の形式で、3形式中最も制限が緩い。	
	独立度	高い節としても低い節としても用いられる。
	表現	特に主節が新しい事態の発生や発見の場合にふさわしい。
	主節の述語	「変化」が多い。従属節と主節で動作主（状態主）が異なる場合が多い。
トキニ		
	独立度	低い節として連体修飾節の中に収まりやすい。
	表現	特に一回の事態の発生を報告する場合、時を制限する場合にふさわしい。
	主節の述語	「変化」が多い。
トキ(ニ)ハ		
	独立度	高い。対比用法は低い節でも可能である。基本的には従属節全体が主題化された形である。
	表現	一般的なきまり、対比、仮定条件を表す場合にふさわしい。
	主節の述語	「状態」が多い。

Note：「変化」とは工藤（1989）で「主体変化動詞（限界動詞）」と呼ばれるもので、「シテイル」が結果持続を表すものと「～てくる」「～ていく」のような変化を表す形式

寺村(1983)と塩入(2004)から、従属節「トキニ」は、1回きりの事態の発生を報告する場合に最も適当であり、独立度が低いことから、連体修飾節の中に収まりやすい。そして、主節には「変化動詞」が多いことがわかる。また塩入(2004:544)は、従属節の特に時を限定する場合は、「トキニ」がふさわしい、つまり従属節の時を限定して従属節が通常の手態でないことを表す場合「トキニ」が最も適当であるとしている。本稿では、これらの先行研究を踏まえ、従属節「トキニ」の少数表現であり、塩入(1994)で示された主節において少ないとされる状態性述語に焦点を当て考察する。

### 2.3 時を表す従属節「トキニ」

従属節「トキニ」の説明において、寺村(1998)は、(主節で)状態を述べるときは、「トキハ」も「トキ(ニ)」も使えるが、前者のほうが少なくとも普通であると説明し、(4)はほんの少しぎこちない感じがすると述べている。

(4) 頂上に着いたとき(に)雨が止んでいた。

また、『現代日本語文法6 第11部 複文』(2006:172)においても、「トキニ」は主節に状態性述語、特に形容詞が現れにくいと説明されている(例(5))。

(5) 初めて車を運転した(?ときに/ときは)、本当に恐かった。

以上のことから、従属節「トキニ」の主節には、状態性述語が少なく、あったとしてもぎこちなさ、違和感を持つ表現であると言えそうだ。では、実際に従属節「トキニ」の主節の状態性述語はどのような形で表れているのか、さらにその表現にはどのような特徴があるのだろうか。

## 3. 調査の概要

### 3.1 調査資料・調査方法

従属節「トキニ」を収集対象として、『中日新聞』(2006年)を用いた<sup>3)</sup>。また、本稿では塩入(1994,2004)と工藤(1995)を参考に状態性述語を次のように定義した。ただし、塩入(1994,2004)では、動詞の受け身を状態性述語に分類していたが、本稿では久野(1996)に従い、受け身を無意志述語であっても状態性述語とは見做さない。さらに久野(1996)を参考に希望の「～たい」を状態性述語に分類した。

状態性述語：名詞、形容詞の状態性述語の他に、可能動詞、知覚動詞、感覚動詞、動詞の否定、「～たい」が付随したもの、「～べきだ」などの当意を表す形式が付随したものを含む。

例) 学生だ・嬉しい・ある・見られる・食べられる・聞こえる・

感じる・いない・～たい・～べきだ・～なければならない 等。

なお、一文に「トキニ」を2つあるいは3つ含むものは、それぞれ個別に計上している。また「トキニハ」以外にも「トキニモ」「トキニコソ」などのように「トキニ」に係助詞を含むものは手作業で削除した。同様に「トキニばかり」「トキニ千葉へ」などのように主節の述語が不明なもの、「いざというトキニ備えた」のように「トキニ」が従属関係にあるものではなく、動作や態度が向けられている方向を表す<sup>4)</sup>場合も手作業で削除した。今回の調査は従属節「トキニ」の主節の述語に焦点を当てているため、従属節「トキニ」が並列節に含まれ、二つの述語の係る場合は、(6) a, (6) bのように2文と捉えた。以下、例文はすべて『中日新聞』（2006）より収集したものである。

- (6) a. 同年の人たちは困ったときに相談相手になるし、頼りになる。  
 b. 同年の人たちは困ったときに相談相手になるし、頼りになる。

以上の作業過程を経て、従属節「トキニ」を含む用例 2241 を抽出した。さらに、今回は主節が状態性述語の特性を分析するため、従属節「トキニ」が補足節（例（7））、連体修飾節（例（8））、副詞節（例（9））、等位節・並列節に含まれる文（例（6） a, (6) b）を除いた単純な従属節「トキニ」（例（10））のみを考察の対象とし<sup>5)</sup>、164 例を収集した。

- (7) 地震で建物が崩壊した時に、発覚したことにしたい。  
 (8) このほか、食器を洗う時に重宝する給湯器は、設定温度を四〇度から三八度に下げただけで千三百十円も変わってくる。  
 (9) 十四年前に父が亡くなった時に病室のベッドに横たわってみたら涙が出てきた。  
 (10) 日本人自身が自国の軍隊の行動を検証していないし、何かが起こった時に政府の主張に対する反証もできない。

### 3.2 調査結果

従属節「トキニ」を含む 2241 例のうち、主節が状態性述語のものは 545 例で 24.3%（表 3 参照）であり、状態性述語の扱いが若干異なるものの、表 1 で示した塩入（1994）の結果と同様、少数表現であることが確認できた。また、主節が状態性述語の場合における単純な従属節「トキニ」は 164 例（30.1%）であった。従属節「トキニ」が連体修飾節に含まれる割合は 26.4%で、補足節、副詞節、等位節・並列節に含まれる割合より多く、塩入（2004）の「連体修飾節の中に収まりやすい」という結果と合致していた。さらに、主節が状態性述語の単純な従属節「トキニ」における主節の品詞は、動詞が 83.5%と最も多く、形容詞は 12.8%で、形容詞が現れにくいことが確認できた（分類の詳細は表 3 下段を参照）。

表3 従属節「トキニ」<sup>6)</sup>

従属節「トキニ」を含む文	2,241		
	主節が状態性述語		
		545 (24.3%)	
	補足節に含まれる (等位節1, 並列節3の重複を含む)		
		103 (18.9%)	
	連体修飾節に含まれる (等位節2, 並列節3の重複を含む)		
		144 (26.4%)	
	副詞節に含まれる (等位節2の重複を含む)		
		123 (22.6%)	
	等位節・並列節に含まれる		
		11 (2.0%)	
	単純な従属節「トキニ」		
		164 (30.1%)	
	主節の述語	名詞	6 (3.7%)
		形容詞	21 (12.8%)
		動詞	137 (83.5%)

## 4. 考察

### 4-1. 主節が名詞の場合

主節が状態性述語の単純な従属節「トキニ」における主節の品詞が名詞の場合は、大きく2つのパターンが見られた。一つは(11)のように感情を表す名詞である。(12)のように疑問詞を含む述語もあるが、この場合疑問文ではなく感情を含む表現(怒り・不満)であり、主節に感情を含む名詞あるいは表現であれば用いることができると言えそうだ。もう一つは(13)のように異なる主語の事実を述べる表現があった。これは従属節「トキニ」の時点における主節の主語の状態を述べるものであり、並列的な状態あるいは従属節「トキニ」が条件的な意味を持つ表現である。なお、ここで述べる主語とは、述語が表す動作の主体、状態の主体、性質の持ち主などであり、ガ格だけではなく、「あなたから言ってください」の「から」なども含む。一般的に主格と呼ばれるものであるが、日本語学習者が理解しやすい主語という用語を使用する。

- (11) 自転車で外へ出ることが多く、何かあった時に安心。
- (12) 国民が戦っているときに何だ。
- (13) 主の月収一、二万円という時に、卵は一個十二、三円。

### 4.2 主節が形容詞の場合

次に述語が形容詞の場合を見てみると、そのほとんどが(14)のような感情を含む形容詞であることがわかった。ここでの感情を含む形容詞とは、属性形容詞に対する感情形容詞の分類とは異なり、(15)のように文脈の中で従属節「トキニ」を客体として扱い、話し手の判断を表すものである。感情を含む形容詞は状態性でありながらその主語は人であり、聞き手に情報を伝えるという機能をもつ叙述のモダリティ<sup>7)</sup>である。

- (14) 小さい子は思い通りにならない時に大変だ。
- (15) 追い込まれたときに強い。

一方、(16) (17) は事実を述べる文であり、4.1 の主節が名詞の場合と同様、従属節と主節の主語が異なっていることを確認できた。

(16) 「暑さに弱い」と監督が心配したように、たすきを受けた時に気温 22 度の中で足取りは重い。

(17) もともと雨の多い地域だが、勤務していた時に大きな災害はなかった。

### 4.3 主節が動詞の場合

主節が動詞の場合については、4.1 の名詞および 4.2 の形容詞から得られた主節の述語に感情が含まれるか否かという視点から、主節の述語のモダリティを中心に、それぞれの形式を考察していく。形式は、存在動詞、感情や感覚を含む動詞、当意を表す述語、「～ている」の形を取る述語、可能と否定を含む述語、形容詞的述語、その他の 7 分類とした。

#### 4.3.1 存在動詞

(18) のように、出来事の生起を表すものが多く、また (19) (20) のように存在意味を持つ場合もあるが、どちらも従属節と主節の主語が異なる。

(18) ちょっと迷っているときにヨット部の勧誘があつてね。

(19) 肝心な時に、だれもいない。

(20) 昨年の J1 では、最終節を迎えたときに優勝の可能性を持つクラブが五つもあつた。

#### 4.3.2 知覚動詞（思う）・感覚動詞（感じる）・「～たい」・「～ほしい」

これらは感情を伴う述語であり、状態性述語に分類されるものの存在動詞のような静態動詞ではなく、動作動詞と静態動詞の中間に位置するもの<sup>8)</sup>と考えられる。

(21) 子どものころを振り返った時に思い出してほしい。

(22) [元阪神・八木裕氏（評論家）の話]

今春キャンプで新庄と話をしたときに、もしかしたら、と感じた。

#### 4.3.3 当意を表す述語

当意は話し手の強い判断を含む表現であり、(23) の「～べきだ」は当然だという評価、(24) の「～はずだ」は蓋然性を表している。

(23) 人間は限りがある中で生きている。やるべきことはやれる時にやっておくべきだ。

(24) これからいろいろな人とかかわるときに参考になるはず。

#### 4.3.4 「～ている」

このかたちを取るものには、(25)のように経験を意味するものが多く見受けられた。経験を意味する「～ている」は連続した動きや状態を表すものではなく、過去の出来事を現在と関連付けて表現するものであり、話し手の心理的な関与があると認められる。一方、(26)の同じ動作を繰り返す反復や(27)の結果の継続を表すものもあったが、これらも連続した動きの状態を表すものではなく、従属節と主節の主語が異なっている。なお、今回収集した用例の中に、動作の継続を表す表現は見られなかった。「～ている」の場合、話し手の心理的な関係の特徴付けるモダリティ性はあまり確認されなかったが、少なくとも動作の継続を表すものは従属節「トキニ」の主節に出現しないであろうと言えそうだ。

- (25) 父は桂福団治さん、母は歌謡声帯模写の翠みち代さん、いとは女優の泉ピン子さんという芸能一家に育った上方落語界の若手ホープで、小学校二年生の時にテレビの「素人名人会」で名人賞を受けている。
- (26) 同消防本部は、日常生活の中や災害が起きた時などでの活用を目的に、二、三年生の時に一時間ずつ、人工呼吸などの講習を実施している。
- (27) ショットの時に腰の位置が右にずれていた。

#### 4.3.5 可能動詞・動詞の否定

(28)の可能動詞は状態性述語ではあるが、認識のモダリティで事態が成立する可能性を表し、(29)の動詞の否定は認識のモダリティで断定を表す。このことから、少なからず話し手の心理的な関与があると考えられる。

- (28) 学びたい人が、学びたい時に、学びたいスタイルで学べる。
- (29) みんなが笑うときに、僕は笑わない。

#### 4.3.6 形容詞的述語

「～がちだ」「～やすい」のような難易文<sup>9)</sup>は傾向を意味し、形容詞的な働きをしている。これらは形容詞と同様、話し手の判断が存在していると捉えることができる。

- (30) エスカレーターが旅客ビルの中央にあるので、場所を尋ねられた時に案内しやすい。

#### 4.3.7 その他

その他に関しては、すべて(31)のように習慣的な出来事を回想する表現や(32)のように経験を表すものであった。これらは過去の出来事を現在と関連付けて表現するものであり、話し手の心理的な係わりが認められる。

- (31) 昔は買い物に行くときに良く使ったものよ。



- (32) 実は三十五歳の時、若田光一さんが受かった時に、宇宙飛行士の試験を受けたことがあります。

#### 4.4 総合考察

単純な従属節「トキニ」の主節が状態性述語における以上の考察をまとめると、表4のようになる。従属節「トキニ」の「ニ」は時間の1点を表すゆえ、従属節「トキニ」は時を限定する意味が基本にあり、主節では事態の発生を表現する場合に最もふさわしい。しかしながら、少数表現である主節が状態性述語の場合を分析することで、状態性述語の場合は話し手の心的態度が含まれる表現が多いという特徴があることが明らかになった。これは、従属節が通常の事態ではない場合「トキニ」が最もふさわしいとする（塩入 2004：544）説明を補足するものであると考える（傍点引用者）。すなわち、話し手の心的態度が表出することで従属節「トキニ」を特別な場合と捉えていると考えられる。

表4 単純な従属節「トキニ」の主節が状態性述語の分類

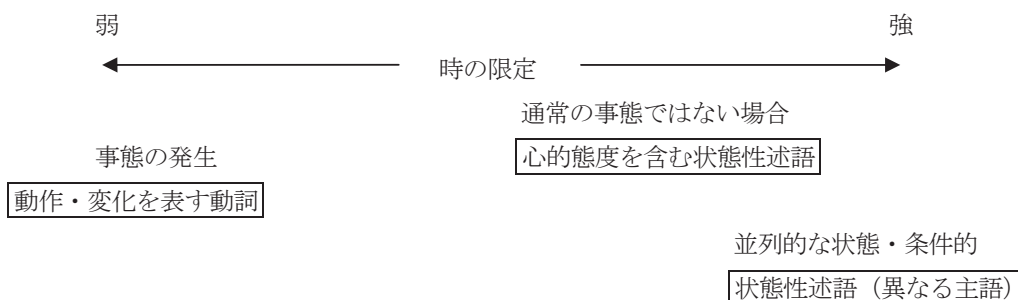
名詞	感情を含む表現			感情を含まない表現（事実）				非文	
6	3			2				1	
特徴	話し手の心的関与			異なる主語					
形容詞	感情を含む形容詞			感情を含まない表現（事実）					
21	16（異なる主語2例を含む）			5					
特徴	話し手の心的関与			異なる主語					
動詞	①	②		③	④	⑤		⑥	⑦
	ある	知覚 感覚	～たい ～ほしい	当意	～ている	可能	否定	～やすい	その他
137	7	10	29	14	23	32	14	3	5
心的態度		○	○	○	△	○	○	○	○
特徴	異なる 主語				異なる 主語			形容詞的	

Note：動詞⑤の可能32は否定11を含んだ用例数

一方、心的態度を含まない状態性述語の場合（これらは工藤（1995）の静態動詞に分類されるもので、ここでは名詞・形容詞で事実を述べる、存在を表す、および「～ている」の結果の継続）は、異なる主語であれば適切であることがわかった。従属節「トキニ」は独立性が低いとはいうものの、異なる主語を立てる、つまりは明確にすることで独立度を高め、並列的な状態あるいは条件的な意味を表すことが可能になっていると考えられる。特に、異なる主語を含む「トキニ」は（16）'（19）'のように「トキニハ」に置き換え可能な場合が多く、係助詞の「ハ」が持つ物事を取り上げる働きを内包していると考えられる。このことは従属節「トキニ」が特別な場合、つまり特に限定した時を表していると言える。

- (16)' 「暑さに弱い」と監督が心配したように、たすきを受けた時には気温22度の中で足取りは重い。  
 (19)' 肝心な時には、だれもいない。

これらの表現は、はっきりした境界があるわけではなく時の限定を基軸にしたグラデーションを持っており、述語の性質からみると次のように示すことができよう。



また、今回の調査では(33)の非文と考えられる文が1例存在した。この場合、(33)'のように主節が事態の発生を表す動詞であれば成立する。これは、「出来事」という名詞が事態の発生を内包するがゆえに、誤って述語として用いられたのではないかと考えられる。

(33)\* [岐阜市、高校生の中原純さん(18)] 小学校6年生の時に学校の体育館の出来事ですかね。

(33)' 小学校6年生の時に学校の体育館で起こった出来事ですかね。

## 5. まとめと今後の課題

今回は従属節「トキニ」の少数表現である主節が状態性述語に着目し考察した結果、心的態度が含まれる状態性述語と心的態度が含まれない状態性述語の2つのパターンが存在することがわかった。主節が心的態度を含む状態性述語であれば、従属節「トキニ」を特に限定し、通常の事態ではないことを表す。このような特徴を知ることによって、主節にどのような状態性述語がくるのかをある程度限定することができ、日本語学習者がより適切な文を産出するための一助となるであろう。一方、心的態度が含まれない状態性述語の場合は、従属節と主節が異なる主語を持つことで並列的な状態もしくは条件的な意味を持つ。これは、主節の状態性述語に心的態度が含まれない場合、異なる主語を持たせることで適切な表現となり得るということであり、このような形式的な面からのアプローチは日本語学習者にとって誤用を避ける有効な役割となるであろう。

しかしながら、今回の分析では「もしもの時～」や「いざという時～」のように従属節の主語が曖昧な文もあり、必ずしも異なる主語であることを明確にできなかったものもある。このような表現を取り出して分析することでより詳細な知見を得られる可能性がある。また、今回の調査では単純な従属節「トキニ」(164件)に限定して行ったため、使用例全体数(2241件)の7%強にすぎず、従属節「トキニ」の主節が状態性述語の特徴を網羅しているとは言い難い。よって、今後は今回の調査結果を踏まえ、主節が状態性述語全体の分析を行い、検証を進めていく必要がある。さらに、今回の調査で非文と考えられる文が1例存在していたが、非文あるいは

誤用について、今回の結果とつき合わせて検証することでより明確な示唆を得られるであろう。したがって、今後は日本語学習者の誤用をもとに今回の調査結果と照合し、さらなる分析、考察を行いたい。

## 注

- 1) 塩入（1994）では、副詞節内部の要素と含まれる節の2点から独立度の高さを測っている。
- 2) 塩入（1994）では、主節の分類について工藤（1989）を参考にして、次の3つのタイプに分けている。  
動作述語：工藤（1989）で「主体動作（動き）動詞（無限界動詞）」「主体動作＝客体変化動詞（限界動詞）」と呼ばれるもので、「シテイル」が動作維持を表すものである。  
例）歩く・食べる・開ける・見る・読む・動く 等。  
変化述語：工藤（1989）で「主体変化動詞（限界動詞）」と呼ばれるもので、「シテイル」が結果持続を表すものと「～てくる」「～ていく」のような変化を表す形式も含む。  
例）開く・来る・行く・～てくる・～ていく 等。  
状態述語：名詞、形容詞の状態性述語の他に、可能動詞、感覚動詞、動詞の受け身、動詞の否定、「～べきだ」などの当意を表す形式が付随したものを含む。  
例）感じる・痛む・～べきだ・～なければならない ～いけない 等。
- 3) まず、『中日新聞』（2006年、CD-ROM版）のデータベースをUNIXサーバー上に保存した後、一行一文に整形し、「とき（時|とき）」を含む文を抽出した。次に形態素解析ソフト「茶筌（chasen 2.4）」を用いて形態素に分割し、「トキ\_名詞\_ニ\_格助詞」を含む文を抽出した後、「トキ\_名詞\_ニ\_格助詞\_ハ\_係助詞」を削除することによって2743例を収集した。
- 4) 『日本語教育事典』（1998：393）では、方向性を持つ二項動詞として取り上げている。
- 5) 補足節、連体修飾節、副詞節、等位節・並列節の分類については、『現代日本語文法6 第11部 複文』の補足節、名詞修飾節、副詞節、等位節・並列節に従った。
- 6) 等位節・並列節に含まれ、かつそれが補足節、連体修飾節、副詞節に含まれるものは、それぞれ、補足節、連体修飾節、副詞節として計上している。例えば、次の例文では、「トキニ」の主節は、「わかりやすいのか」「読みやすくなるのか」の二つの述語に係り、さらに「こと」に含まれる。このような文は補足節に分類している。  
・私は、文章を書くのが下手だし苦手だけど、新聞講座を受けて、どのように書けば相手に伝わりやすいのか、後で読んだときに分かりやすいのか、読みやすくなるのかということを学びました。  
（『中日新聞』（2006））
- 7) モダリティの意味解釈は、日本語記述文法研究会編（2003）『現代日本語文法4 第8部 モダリティ』を参考に行った。
- 8) 工藤（1995）は思考動詞、感情動詞・知覚動詞・感覚動詞を内的状態動詞として動作動詞（この場合、外的運動動詞、主体動作・客体変化動詞、主体動作動詞）と静態動詞（存在動詞、関係動詞、特性動詞。）の中間に位置付けている。
- 9) 鳥田（1998）は、難易解釈の難易文は個体の性質を叙述する状態述語文であるとしながらも、「あわてものは事故をおこしがちだ」のような傾向解釈の難易文は典型的な状態性とは異なると結論付けている。

## 使用データベース

『中日新聞』（2006年 CD-ROM版）

参考文献

- 岡田雅彦 (1991). 「時間名詞の一側面－『ニ』をとるばあいととらないばあいについて－」『横浜国大  
語研究』第9号 39-46
- 工藤真由美 (1989). 「現代日本語の従属文のテンスとアスペクト」『横浜国立大学人文紀要 第二類 語学・  
文学』第36輯 1-24
- 工藤真由美 (1995). 『アスペクト・テンス体系とテキスト－現代日本語の時間の表現－』ひつじ書房  
69-80
- 渋谷勝己 (1998). 「可能動詞とスルコトガデキル－可能の表現」『日本語類義表現の文法 (上)』宮島達夫・  
仁田義雄編 くろしお出版 111-120
- 島岡紀子 (1998). 「難易文と『がちだ』文」『筑波応用言語学研究』第5号 筑波大学大学院博士課程文芸・  
言語研究科応用言語学コース 15-28
- 鈴木忍 (1985). 『文法 I 助詞の諸問題 1』国際交流基金 教師用日本語教育ハンドブック3 凡人社  
105-109
- 久野暉 (1996). 『日本文法研究』大修館書店 114-121
- 塩入すみ (1994). 「『トキ』の副詞節に関する調査」『台湾日本語文學報』6 中華民國日本語文學會 239-  
259
- 塩入すみ (2004). 「トキとトキニとトキ (ニ) ハ」『日本語類義表現の文法 (下)』宮島達夫・仁田義雄編  
くろしお出版 539-546
- 寺村秀夫 (1983). 「時間的限定の構文的機能 — 「トキ」の場合」『副用語の研究』明治書院 260-266
- 寺村秀夫 (1998). 『日本語教育参考書 5 日本語の文法 (下)』国立国語研究所 50-57
- 中村ちどり (2001). 『日本語の時間表現』くろしお出版 157-172
- 日本語記述文法研究会編 (2003). 『現代日本語文法4 第8部 モダリティ』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編 (2008). 『現代日本語文法6 第11部 複文』くろしお出版
- 日本語教育学会編 (1998). 『日本語教育事典』大修館書店
- 南不二男 (1990). 『現代日本語の構造』大修館書店 114-131